

1、園の教育目標

・よく考え、よくみつめる子ども	【思考・認識】	・心の美しい、優しい子ども	【情緒】
・自分から進んで創りだす子ども	【自主・自立・創造】	・辛抱よく、やりとげる子ども	【忍耐】
・友だちと元気に仲よく遊ぶ子ども	【協調】		

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した 学校評価の具体的な目標や計画

- | | |
|------------------------|----------------|
| ① 子どもの主体的な遊びを育むための環境作り | ② 幼児理解に努める |
| ③ 様々な人との交流の充実を図る | ④ 教職員の資質向上を目指す |
| ⑤ 環境美化・環境整備に努める | |

3、評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	取 組 状 況
①◎子どもの興味・関心を意識した環境設定をすると共に、職員間で情報を交換し合い、環境を整える。	○職員間の連携を取り、情報交換をし合うことで、子ども達の興味に合わせた環境作りが設定でき、様々な遊びを発展させることが出来た。
◎子どもの意見に耳を傾け、遊びや学びが発展していくよう必要なヒントを与えたり追及する面白さを味わえるようにしたりする。	○遊びやすさ、選びやすさ、片付けやすさを大切にしながら、興味関心が持てる取り組みを、子ども意見をもとに考えることができた。
②◎園児一人ひとりの様子やつぶやき、支援の必要な園児へのかかわりについて、園内研修や学年会等で共有し、理解を深める。	○学年会で共有することで、様々な意見を知り、新たな考え方や関わりを学べた。 ○特別支援担当と対応の仕方を考えたり、情報を共有したりしながら、園児理解に努めることができた。
◎一人ひとりの異なる表現の仕方や、良さを見出し、それを保護者・職員に伝え共有できるようにする。	○保護者への情報発信について、配信や掲示など工夫して行うことができた。
③◎子ども間で憧れの気持ちを持ったり、刺激し合ったりすることで、交友関係を深められるようにすると共に、地域の人ともかかわりが持てるよう働きかける。	○異年齢とのかかわりがもてるように、一緒に散歩に行ったり、保育室での催しに招待したりし、交友関係が深まるよう工夫する。

◎挨拶を通して地域の人とも思いやりの気持ちを持ってコミュニケーションが取れるようにしていく。 ◎英語を使ったコミュニケーションの時間も大切に、異文化交流できる環境作りをする。	○商店街のお店に買い物に行ったり、調べものをしたりすることで、地域の人と交流できる機会を設けることができた。 ○英語を使ったコミュニケーションは計画通りにはいかず、十分に取り組むことができていないため、今後も工夫が必要である。
④◎子どもにとって身近な大人として、自分自身の言動に気を付けると共に、保育について議論し、高めあえる関係性を築くことで、園全体の保育の質の向上に繋げる。 ◎積極的に研修に参加し、自身のスキルアップを目指し、遊びを切り取る力を身につける。 ◎率先して挨拶したり、感謝の気持ちを言葉にして、職員間の輪と笑顔を大切に協力しながら関係性を築いていく。	○一人ひとりの意見に耳を傾け、議論し合えたこと、経験年数に関係なく、高めあえる関係性を築くことができた。 ○自身のスキルアップを目指し、積極的に研修に参加できた職員もいたが、それを全体で共有できる機会が少ないため今後の課題である。 ○職員間で積極的にコミュニケーションが取れるようにそれぞれが意識し、挨拶や感謝の気持ちを伝え合うことができた。
⑤◎園内の清掃や、整頓等、常に意識し、継続的に環境美化に努める。 ◎定期的にチェック表をつけることで、危険箇所や危険物等に、職員一人ひとりが気づけるように努め、安全に過ごせる環境を整える。	○一人ひとりの意識は高まり、環境美化に努めることが出来た。 ○ヒヤリハット事例について、終礼等で伝え合うことで、対策や修理、対応等全体で考えることができた。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

○話し合いや意見交換を盛んに行い、職員間の連携が取れていたことでそれぞれが各項目において、成果を見出すことができた。 ○野菜の栽培、買い物、クッキングなどを通して、地域の方々と交流することができた。 ○園内の環境美化・整備において、個人的な部分はそれぞれ意識して取り組むことができたが、全体のことを考えて環境を整えることが不十分だった。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
○子どもの主体的な遊びを育むための環境作り	◎子どもの興味・関心を意識した環境設定をすると共に、職員間で情報を交換し合い報連相を大切にしながら環境を整える。 ◎子どもの意見に耳を傾け、遊びや学びが発展していくように必要なヒントを与えたり、追及する面白さを味わえるようにし、子どもと同じ目線で楽しめるようにする。
○幼児理解に努める	◎園児一人ひとりの様子やつぶやき、支援の必要な園児への関わりについて、園内研修や学年会などで共有し理解を深める。 ◎一人ひとりの異なる表現の仕方や、良さを見出し、それを保護者・職員に伝え共有できるようにする。
○様々な人との交流の充実を図る	◎子どもの間で憧れの気持ちを持ったり、刺激し合ったりすることで、交友関係を深められるようにすると共に、地域の人とも関わりが持てるように働きかける。 ◎挨拶を通して地域の人とも思いやりの気持ちを持ってコミュニケーションがとれるようにしていく。 ◎英語を使ったコミュニケーションの時間も大切に、異文化交流ができる環境作りをする。
○教職員の資質向上を目指す	◎子ども達にとって身近な大人として、自分自身の言動に気を付けると共に、保育について議論し、高め合える信頼関係を築くことで、園全体の保育の質の向上に繋げる。 ◎積極的に研修に参加し、自身のスキルアップを目指し、遊びを切り取る力を身につける。 ◎率先して挨拶したり、感謝の気持ちを言葉にして職員間の輪と笑顔を大切に、協力しながら関係性を築いていく。 ◎八つの発達領域を踏まえて子どもの発育の土台となるような環境を意識する。
○環境美化・環境整備に努める	◎園内の清掃や、整頓等、常に意識し、継続的に環境美化に努める。 ◎定期的にチェック表をつけることで、危険箇所や危険物等、職員一人ひとりが気付けるように努め、安全に過ごせる環境を整える。